令和７年度　奈良市地域自立支援協議会
（　　触法障がい者支援　　）グループ　活動報告書

活動目的	司法関係者、福祉（障がい者支援）関係者を中心に、様々な理由により法に触れる行為に至る、または繰り返す障がい者がいる現状に対して、多職種協働による支援体制の構築と連携強化を図る。
テーマ 取り組み ポイント	１．　主に地域生活を支える福祉サービス事業所（生活介護、就労支援、居宅介護、グループホーム等の各事業所）について、触法障がい者支援の理解促進と受け入れの拡大を目指す。 ２．　福祉・司法等の多職種協働と連携の強化を図る。
開催実績	令和７年 ・４月 17 日　第１回全体会議 前年度の活動について振り返り、令和７年度活動について協議 ・６月 19 日　第２回全体会議　令和７年度活動について ・８月 21 日　第３回全体会議　周知・啓発研修の企画 10 月 16 日　第４回全体会議　周知・啓発研修の打ち合わせ 11 月 25 日　コアメンバー会議　周知・啓発研修の打ち合わせ　ホホエモ布施氏の発表についての内容の確認、調整など 12 月 18 日 第５回全体会議　周知・啓発研修の確認など 令和８年 ２月 10 日　支援者対象研修会（周知・啓発研修） 「そうなんだ！生きづらさの理解　みんなでやれば大丈夫　Part5～奈良ならではのつながりで、ありのままを考える～」 ３月 12 日 第６回全体会議　令和７年度の活動について振り返り
参加事業所等	主担当：相談支援センターこすもす サブ担当：奈良県発達障害者支援センターでぃあー 大和路法律事務所 奈良保護観察所 奈良少年院 ワンネス財団　フラワーガーデン 奈良少年鑑別所　奈良法務少年支援センター 奈良県地域生活定着支援センター ＮＳネットワーク 空と海 合同会社ほほえみ　ホホエモ 奈良市障がい福祉課 奈良市基幹相談支援センター 奈良市社会福祉協議会(奈良市地域自立支援協議会事務局)

今年度の取り組み協議事項	① 前年度の研修での参加機関・事業所のアンケートとグループワークでの意見を集約し、分類、課題を集約した「触法障がい者支援のソーシャルインクルージョンビジョン」を振り返った。対象者への支援に関しての課題は、問題行動へのアプローチなど、障がい者支援全般に共通する課題が多い。その他、居住支援、地域への理解などが重要な課題である。その流れから地域の障がい福祉サービス事業所や民生委員など地域の支援者への周知、啓発が引き続き必要ということになり、周知・啓発研修の企画・実施となった。 ② 各参加機関より触法障がい者支援に関連する活動、研修など共有 ゼロ会（奈良司法福祉ネットワーク会議）の活動について共有。ゼロ会は２か月に１回、様々な分野の方が毎回１テーマずつ発表する勉強会を実施。 なら社会復帰支援隊（通称あひる隊）の活動について共有。なら社会復帰支援隊では、社会のルールや法律について学ぶ当事者向け勉強会、司法制度や当事者理解などについての支援者向け研修を実施。 その他、でぃあー、ワンネス財団など参加機関・事業所から研修案内を実施した。
成　果	・周知・啓発研修（支援者対象）の開催 「そうなんだ！生きづらさの理解　みんなでやれば大丈夫　Part5～奈良ならではのつながりで、ありのままを考える～」 日時：令和８年２月10日㈫14:00～16:00 会場：はぐくみセンター8階　中講座室（オンラインも可） 触法障がい者支援に留まらず、対象者が地域での役割、社会貢献に関わる場所づくりを実践しているしあわせ工房の布施氏がメインプログラムの発表を担当。 触法障がい者支援に関わる専門機関(奈良保護観察所・奈良法務少年支援センター・奈良少年院・ワンネスグループ・奈良県地域生活定着支援センター・大和路法律事務所）の機関機能紹介について発表。 更に参加者とグループメンバーでのグループディスカッションを実施した。「事業所で取り組めそうなこと」「課題に感じていること」など意見交換を実施した。 現地 10 名、オンライン 4 名の参加となった。民生委員、依存症支援関係者が複数名参加していただいた。
重点協議項目	触法障がい者支援の理解促進と受け入れの拡大を目指して周知・啓発研修を実施した。
来年度の活動へ向けて	ここ数年は毎年、支援者へ向けての理解促進と受け入れの拡大を目指して周知・啓発研修を実施してきた。これまでの活動を振り返り、現在取り組むべき地域課題にフォーカスを当てられるよう検討していく必要があると考える。
その他 提言事項など	